生ごみ自家処理 こうしてためています！

川崎市麻生区
吹込クローバーの会
代表 阿部 貴紅子

生ごみ堆肥で花も活き活き、街の景観アップ！

吹込花壇は川崎市による「緑の景観づくり推進事業、王禅寺地域のみどりの軸線づくり」として2004年に整備されました。地域の事業者や市民、町会、保育園、市民グループなどが協働して花植えを行ってきましたが、2010年秋の植栽を最後に解散しました。

「これは何とかしなければ」と所属している緑の活動団体「木こりの会」の女子メンバーに声をかけ、「吹込クローバーの会」を結成しました。2011年4月のことです。環境にやさしい花壇づくりをモットーに約200㎡の花壇活動がスタートしました。作業中に声をかけてくださる人に「一緒に作業をしませんか」と声かけし、現在メンバーは12人です。作業には参加しないが生ごみ堆肥を提供するメンバーも他に5人います。「環境を考え行動する会」とも連携し、人手を必要とする植替え時には応援をお願いしています。

川崎市の「生ごみリサイクル活動助成金＊」を活用して、堆肥化資材の購入や道具類を揃えることができました。この制度のおかげで生ごみ堆肥化の継続率がアップしています。ダンボールコンポストによる堆肥化が大半ですが、品質にばらつきがありますので回収後、まとめて混合し、施しています。また腐葉土もメンバーが作ったものを使い、化学肥料や農薬類は一切使っていません。結果、多様な昆虫が生息しています。

その他に特筆すべきは、抜いた苗や刈り込んだ草をごみに出していません。近くの農家の堆肥場に運び、農家が野菜づくりに利用しています。また、宿根草と球根の活用や種から苗を育てたり、花壇の植栽を上手に利用して苗を越冬させたりして新しい苗の購入をできるだけ抑えるようにしています。余った種や苗は交流会などで他の団体に配布しています。5月になると川崎市内あちこちで私たちが配った「オルレア」の白い花が咲き誇る風景を見ることができます。

放置されていた雑草生い茂る花壇に少しずつ手を入れ、メンバーと花壇デザインを話し合い、成果の出てきた2012年に、川崎市の「わがまち花と緑のコンクール」に応募し、見事初回で大賞という栄誉に浴しました。その後毎年受賞し、生ごみ堆肥の底力を実感しています。1人でも多くの方々にアピールするため「生ごみ堆肥で育てています」の看板を設置しています。花壇の花は実に活き活きとして、道行く人や、バスの乗客のみなさまの目を楽しませていることを度々耳にし、メンバー一同嬉しく、日々の手入れに勤しんでいます。

＊川崎市生ごみリサイクル活動助成金制度
生ごみの減量と資源の地域循環を推進するため、家庭から発生する生ごみを堆肥化し、農地や公共花壇で有効活用する10人以上の市民団体の活動に対し、生ごみリサイクル活動費用の一部を助成する制度で、上限100,000円　3年間（1団体3回まで）